

東京大学大学院人文社会系研究科
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣
帰国報告

長谷部 圭彦

最終報告提出日

2012（平成24）年10月7日

派遣生の基本情報

氏名：長谷部 圭彦（はせべ きよひこ）

所属先：東京大学大学院人文社会系研究科附属次世代人文学開発センター 客員研究員
専修大学・上智大学・明治大学・駒澤大学 非常勤講師

派遣形態：平成23年度冬学期個人派遣（PD）

研究課題名

19世紀オスマン帝国における教育と社会

派遣先での活動

(1) 派遣先の基本情報

国名：トルコ共和国

都市名：イスタンブール

研究機関名：総理府オスマン文書館、イスラーム研究センター、アタテュルク図書館
女性学図書館

コンタクトした主な研究者名：イルハン・シャーヒン（クルグズスタン・マナス大学）、
ビロル・ジャイマズ（ガラタサライ大学）、セイフィ・ケナン（イスラーム研究センター）、
アイシェ・アカルン（イスタンブール工科大学）、山本恒（イスタンブール工科大学）

(2) 派遣期間

出発日：2012年7月22日（日）

帰国日：2012年9月22日（土）

総日数：63日

主な研究成果

(1) 当初の計画の概要

本研究の当初の計画は、かつてのオスマン帝国の首都であったイスタンブールにおいて史料を収集し、19世紀のオスマン帝国における教育を、とくに軍事関連の教育機関に焦点をあてて考察することであった。具体的には、総理府オスマン文書館、イスラーム研究センター、アタテュルク図書館などに日参し、公開されて間もない分類に収蔵されている未刊行史料や、オスマン語やフランス語などの刊行史料を収集・閲読することであった。

(2) 実際に達成された成果

このような研究計画は、概ね当初の予定どおり遂行された。ただし、本プログラム応募時から出国日までの間に、軍事諸学校に加えて、他のテーマをも考察することとなったため、それに必要な文献も収集した。具体的には、女子教育に関する史料と、オスマン史上「ハミト期」と呼称される時期の教育に関する史料である。いずれのテーマも、残された史料は極めて膨大であるため、網羅的な収集には至らなかったが、それぞれのテーマにつき、ある程度の見通しを得ることができた。また、市内の書店・古書店において、トルコ語の研究書を購入した。

こうした文献収集に加えて、このたび東京大学との全学協定が締結されたイスタンブール工科大学において、現地語であるトルコ語で研究報告を行う機会を得た。これは、同大学文理学部人文社会学科の定例研究会において実施されたもので、派遣生が専門とするオスマン帝国の教育史を、ほぼ同時期に類似した改革を行った日本との比較を通じて再検討しようとしたものであったが、幸いにして参加者の好評を得ることができた。

(3) 今後の研究展望

今後は、このようにして得られた研究成果を公表するとともに、オスマン教育史を出発点として「世界教育史」を構築したいと考えている。前者については、いずれのテーマも、近日中に口頭報告ないしは論文の形で公にする予定である。後者については、派遣生はすでにある大学において「世界教育史」の講義を担当しているので、それをさらに洗練させ、よりバランスのとれた「世界教育史」をいずれ公表したいと考えている。それと並行して、そしてその基礎として、専門であるオスマン教育史を、今後もオスマン語などの一次史料に基づいて実証的に検討していきたい。